

静岡県中央新幹線環境保全連絡会議 第23回地質構造・水資源部会専門部会

2026年2月4日

静岡県

今後の主な対話項目 【トンネル発生土編】

主な対話項目28項目中、発生土置き場関連は全5項目

※灰字: 対話完了項目

青字下線: 今回、引続きの対話項目

主な対話項目

(1) 土石流、地すべり、深層崩壊等の大規模な土砂移動、濁水の流出、細かい粒子の底質への堆積などを想定し、生態系全体や景観への影響を考慮した対策

※ 仮に、発生土を有効活用する場合は、その活用案に応じた対策を追加で検討する必要がある。

(2) 全ての発生土置き場についての詳細な計画(立地、設計、モニタリング等)

(3) リスク管理の手法とリスク対策(リスクマトリクス、リスクマップを使用)

(4) ツバクロ発生土置き場について、以下の点を踏まえた、影響の予測・評価及びその対応※対話完了

(ア)広域的な複合リスク(土石流の同時多発の可能性等)

(イ)対岸の河岸侵食による斜面崩壊の発生リスク

(ウ)土石流の緩衝地帯としての機能低下

(エ)予測のシミュレーション条件

(オ)ツバクロ発生土置き場の断層(推定)の影響

(5) 自然由来の重金属等を含む要対策土の処理

※(1)(2)(3)について、通常土に関しては対話完了

議題1 自然由来の重金属等を含む要対策土の処理

【対話項目(5)】

- ・自然由来の重金属等を含む要対策土の処理

事務局説明内容

【対話項目の背景】

○令和7年10月 第22回地質構造・水資源部会専門部会

- ・JR東海がオンサイト処理(乾式磁力選別)を含む要対策土の処理方法について説明した。

<前回のまとめ>

- ・乾式磁力選別処理を選定したことは適切。
- ・オンサイト処理ができない重金属等が万一発生した場合について、あらかじめ対応を決めておく必要がある。
- ・引き続き、オンサイト処理のより詳細な計画について説明をいただき、対話を進める。

【本日の対話内容】

○JR東海が要対策土の処理方法や、オンサイト処理の立地を含む具体的な計画について検討したので、内容を確認する。

議題2 藤島発生土置き場

【対話項目(1)】

- ・ 土石流、地すべり、深層崩壊等の大規模な土砂移動、濁水の流出、細かい粒子の底質への堆積などを想定し、生態系全体や景観への影響を考慮した対策

【対話項目(2)】

- ・ 全ての発生土置き場についての詳細な計画(立地、設計、モニタリング等)

事務局説明内容

【対話項目の背景】

○令和7年10月 第22回地質構造・水資源部会専門部会

- ・ JR東海が藤島における封じ込め(盛土構造)処理計画について説明した。

<委員意見>

- ・ 新しい委員もいるため、第17回専門部会で発生土置き場の立地を決定したことについて、復習のために再度経緯を説明していただきたい。
- ・ 引き続き、盛土の形状や安定性等の設計の詳細に加え、またモニタリングについても対話を進める。

【本日の対話内容】

○委員からの要請・意見を踏まえ、第17回専門部会で了解された発生土置き場立地の選定経緯を再確認する。

○JR東海が藤島でのモニタリング等について検討したので、内容を確認する。

議題3 リスク管理

【対話項目(3)】

- ・リスク管理の手法とリスク対策

事務局説明内容

【対話項目の背景】

- 令和元年6月 中央新幹線建設工事における大井川水系の水資源の確保及び水質の保全等に関する中間意見書（県⇒JR東海）
 - ・リスクマトリクス、リスクマップのような可視化した管理手法を用いて、県民が工事のリスクと対策を容易に理解できるよう説明することが必要

【説明内容】

- JR東海は、オンサイト処理施設の設置及び管理を土壤汚染対策法に基づく汚染土壤処理業の許可を得て、法の基準に則り行う。
- オンサイト処理施設における「要対策土の飛散」や「地下浸透」などのリスクは、土対法及びガイドラインで必要な対策が規定されている。
- オンサイト処理施設の破損その他の事故が発生した場合は、静岡市及び静岡県に連絡するとともに、施設の点検や必要な措置を講ずる。
- 藤島発生土置き場については、本日のモニタリング等に関する対話及び検討中の盛土の設計を踏まえ、今後、リスクマトリクス・リスクマップを作成し、次回専門部会で対話をを行う。